



池上まつりに参加

自衛隊東京地方協力本部大田出張所（所長 田中一海尉）は8月25日、大田区に所在する池上会館、池上小学校及びその周辺において開催された第19回池上まつりに参加した。

池上まつりとは、大田区池上地区自治会連合会をはじめとした地域の方で開催している夏の恒例のお祭りであり、パレード、フリーマーケット、屋内外ステージ、抽選会、職人さんによる実演など、たくさんイベントが行われた。

当日は、第1普通科連隊より支援を受け、軽装甲機動車、偵察用バイクの展示、制服の試着体験を実施した。また、「キャラクター集まれ」のコーナーでは、東京地方協力本部のキャラクターである「さくらちゃん」が登場し、来場者から好評を得た。

来場者からは、「自衛隊と身近に触れ合えてよかった」、「自衛隊に興味を持った」、「自衛隊をひとつの職業として捉えることができた。」などの感想が聞かれた。また、大田区自衛隊家族会、募集相談員連絡協議会大田支部及び大田出張所協力会の方々の支援をいただき、協力団体と一体となったイベントとして成果のあるものとなった。

大田出張所では、今後も地域に密着した募集広報活動を実施するとともに、関係部隊、協力団体等と連携を密にして、一人でも多くの方に自衛隊の魅力を知ってもらえるよう募集広報活動に邁進していくとしている。



土浦駐屯地研修でホンモノを実感



自衛隊東京地方協力本部台東出張所（所長 野川一陸尉）は8月30日、中央大学の戦史研究会から依頼を受け、陸上自衛隊土浦駐屯地研修を支援した。

土浦駐屯地は、戦前に海軍飛行予科練習生（予科練）で知られている「土浦海軍航空隊」が置かれた由緒ある地であり、また、戦史を学ぶ上で欠かせない武器類の歴史と進化を辿ることができる武器学校が所在することから、戦史を研究する学生にとって魅力溢れる場所である。

本研修は、その開始に先立ち、広報資料館において予科練の軌跡のドキュメンタリー映像を視聴したのち、予科練記念館「雄翔館」に移り、戦没予科練生の遺書、遺品、遺影等の展示品を見学した。この際、説明者の防衛技官から戦没予科練生の遺書の読み聞かせを受け、当時の予科練生の思いを体験した学生らは「先人が大切に守った祖国への思いを未来に繋いでいく責任が私達にある」、「私達と同じ年頃の若者が崇高な使命感をもって生きた証を目のあたりにして、もっと自分自身が成長したいといけないと感じた。」等の感想を述べていた。

その後、広報資料館の展示室に移り、戦国時代の火縄銃の伝来から現代の小銃、拳銃、機関銃、狙撃銃等に至るまで約170丁からなる小火器のすう勢を学ぶことができる展示コーナーや火砲の装薬、不発弾処理に関する展示コーナーを研修し、学生らはそれぞれの視点で陸上自衛隊土浦駐屯地においてホンモノを実感した。

台東出張所はこれからも熱意と創意をもって各種イベントを企画し、募集対象者に自衛隊のホンモノを肌で感じて興味をもってもらうことにより、職業の選択の一つとしていただけるよう募集広報活動に全力を注ぐとしている。

